

# くるめ見守り通信

第4号

平成30年3月発行 久留米市健康福祉部地域福祉課  
電話：0942-30-9174 FAX：0942-30-9752



この通信は、「くるめ見守りネットワーク」に協力していただいている皆さんに、見守り活動や「くるめ見守りほっとライン」への通報の状況などをお知らせするものです。

## それが大事。あなたの気づき —こんな通報が寄せられています—

平成29年4月1日～平成30年2月28日までで、37件の通報が寄せられました。そのうち安否確認に関する通報は30件で、その中の4件が救出につながりました。

市の職員Xさんから

《通報の内容》

市が主催する事業のサポーターであるAさんが欠席した。Aさんは連絡せずに欠席する人ではなく、自宅に何度も連絡をしているが、電話に出ない。折り返しの連絡もない。

《通報後の対応》

地域福祉課から担当民生委員にAさんの近況を聞き取るとともに、自宅訪問を依頼。訪問した民生委員が、病気のため身動きが取れなくなっていたAさんを発見。すぐに救急車を呼び、搬送してもらった。

連絡をくれたXさんにお尋ねしました



Aさんとは普段どんな関わりを持っていて、どんなところが気になったのですか？

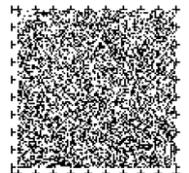
Aさんは市の機関を普段からよく利用されている方で、会った時は適度に会話をお交わしていました。この通報の前日にお会いした時は、会話の受け答えは普段どおりでしたが、いつもより元気がないように感じました。また、壁に寄りかかるようにして階段を上がっていたので、普段と違うなと感じました。

課内で協議した結果、「Aさんは自宅で身動きが取れない状況かもしれない。地域の民生委員さんに連絡を取ってみた方がいい」という方針になり、地域福祉課に「担当の民生委員さんを教えてほしい」と連絡をしました。



「いつもと違う」という気づきのポイントは、ずばり何？

「前日の様子」と「当日、連絡が取れなかった」の2点です。



普段の「さりげない見守り」や「ちょっとした声かけ」が“気づき”につながり、「ちょっとしたおせっかい（この場合は、民生委員さんへの連絡）」がAさんの命を救うことにつながった…という事例です。

## 研修会を実施しました —セルフネグレクトの理解と支援—

平成30年2月13日(火)、日本福祉大学社会福祉学部の齊藤雅茂准教授を講師にお迎えして、「セルフネグレクト※」をキーワードに、地域での孤立防止についての研修会を行いました。

研修では、「“孤立死の防止”よりも“生前の孤立の防止”が重要」といったお話をはじめ、「地域で生前孤立を防ぐために、課題を共有し、自主的に解決策が提案・実施されるようになった」という具体的な取り組み例まで、幅広いお話を聞かせていただきました。



講師：齊藤雅茂先生  
(日本福祉大学社会福祉学部)



↑「研修会の様子」 約80名の方にご参加いただきました。

研修後のアンケートでは、「生前の孤立を防止するためには、地域の取り組みや活動が大切だと思った」「セルフネグレクトのケースに介入するためのルール作りが大切なのではないか」などのご意見が寄せられました。

生前の孤立を防止するためには、「さりげない見守り」「ちょっとした声かけ」「少しのおせっかい」が重要だと言われています。今回の研修の内容を、地域での見守り活動に役立てていただけると幸いです。

また、久留米市でも、皆さんからの通報内容などの分析を進め、「くるめ見守りネットワーク」の推進に活用していきたいと考えています。

### 《ことばの解説》

※セルフネグレクトとは、自分自身の世話を放棄してしまうことをいいます。生活能力や意欲が低下し、必要な栄養が摂取できていない、極端に不衛生な環境で生活しているなど、客観的に見るとその方自身の人権が侵害されています。

## 生前の孤立防止について一緒に考えてみませんか？

地域福祉課では、出前講座『地域で孤立を防ごう—それが大事。あなたの気づき—』を行っています。この講座では、地域の皆さんと一緒に「孤立に陥ってしまう原因」について理解を深め、「孤立しない／させないためにできること」を考え、話し合っています。

5名以上のグループであれば、どなたでも受講できます。

お気軽に久留米市地域福祉課(0942-30-9174)までお問合せください！

### 『いつもと違うサインにピンときたとき』

#### くるめ見守りほっとライン

くるめ・みまもり・サン・キュー  
0942 - 30 - 9 3 3 9

